

日本労働年鑑 第59集 1989年版
The Labour Year Book of Japan 1989

第四部 労働組合と政治・社会運動

III 政党の動向

5 民社党

3 大会・中央委員会

(1)第三三回全国大会

塚本委員長、税制改革論議で二段階方式を提唱

第三三回全国大会は、八八年四月二一～二二日、東京・九段会館で開催され、本部役員・代議員など約六〇〇人が参加した。

塚本委員長は冒頭あいさつのなかで、まず同盟解散・連合結成後の状況にふれ、「深刻な事態であると、率直に告白」したうえで、「友愛会議にひきつがれた同盟の魂と行動力が、文字どおり発展的にひきつがれていくこと」、「新たな状況を踏まえ、わが党の労働対策も一層の強化に努め」ることなどを強調した。

ついで「本年度の課題」として、(1)税制改革、(2)生活先進国づくり、(3)国政選挙の必勝体制づくりの三点をあげ、第一点についてはゆがみ・ひずみの是正をおこなったのちに間接税論議に入るといふ二段階方式を提唱し、この「是正をないがしろにしたまま、大型間接税導入を強行するとすれば、われわれは断固反対してたたかう」との決意をのべた。第二点目については、この運動は、「政策の党としてのわが党が真価を発揮する運動であるばかりでなく、『連合』を中心とする労働組合の政策制度要求を先取りする運動でもある」として、「強力に推進する」ことを訴えた。第三点については、「同盟解散という新たな状況のもとで、党の存在価値が問われる、文字どおり背水の陣でのたたかい」であるとして、選挙準備の強化をうながした。

大会経過

大会第一日目には、塚本委員長のあいさつのあと、公明党矢野委員長・社民連江田代表・連合堅山会長・友愛会議宇佐美議長・民社党と語る会磯村英一座長・民社研小松雅雄議長があいさつをおこなった。このあと、党務報告などが承認されたのち、八八年度運動方針、組織活動方針、重点政策などの議案が提案され、分科会に付託された。

第二日目は午前中、(1)運動方針、(2)組織活動方針・予算、(3)政策の三分科会に分かれて討議がおこなわれ、午後、運動方針・組織活動方針・重点政策を全会一致で決定し、「税制の抜本改革推進に関する決議」など六本の決議と、大会宣言(決議・宣言の全文は『週刊民社』八八年五月六日付参照)を採択して閉会した。税制改革についての決議は「拙速を避け、慎重に国民合意の形成を図り、抜本的税制改革に取り組みねばならず、「改革の手順と国民合意を無視した税制改革は、断じて容認できない」とのべ、大会宣言も「政府・自民党の拙速なやり方に断固反対するとともに、もし強行しようとするならば、国民に信を問う解散・総選挙を強く要求する」として対決姿勢を打ち出し

た。

役員の変更なし

第三三回大会では役員選挙はおこなわれず、現在の役員は第三二回大会で選出されたものである。なお、大会前日の四月二〇日、都道府県連、支持団体の代表者会議で三役の信任投票を求める声があがり、当日朝の中央執行委員会でも話題になったが、結局、信任投票はおこなわれないことで決着した。

▽中央執行委員長＝塚本三郎、▽副中央執行委員長＝永末英一、▽書記長＝大内啓伍、▽中央執行委員＝安倍基雄・荒瀬修一郎・池畑英雄・伊藤英成・岡田正勝・小川泰・小沢貞孝・河村勝・神田厚・栗林卓司・小淵正義・坂大哲之助・三治重信・田中慶秋・田淵哲也・玉置一弥・中井治・永江一仁・中野寛成・中村弘・西村章三・藤井恒男・藤原勝・柳沢錬造・吉田之久・米沢隆、▽統制委員長＝滝沢幸助、▽統制委員＝青山丘・大松明則・川端達夫・北橋健治・小山善次郎・菅原喜重郎・戸部卯吉・中田一郎・西村寿紀・部谷孝之、▽会計監査＝伊藤郁男・木下淳美・鈴木道明・中田昌秀・山本悌二郎、▽常任顧問＝春日一幸・小平忠・佐々木良作・中村正雄、▽顧問＝天池清次・稲富稜人・滝田実・竹本孫・村尾重雄・門司亮・和田耕作

日本労働年鑑 第59集

発行 1989年6月26日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2000年2月22日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑第59集【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
